

3

上野さんの学級では、マナーに関する本を読んで、自分の考えをまとめることにしました。上野さんは一冊の本を読んだ後、本の「はじめに」と「おわりに」とを合わせて読んで、内容を確かめることにしました。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

※段落のはじめにある数字は、その段落の番号を示しています。

はじめに

- 1 みなさんは、家でも学校でも「食べるときには、いただきますと言いなさい」「電車ではお年寄りに席を譲りなさい」などと、教わりますね。もしかしたら、学校のクラスで「こういうときは、どうしたらいいのかな」とマナーやルールを考える授業もあるかもしれない。みなさんは、そういうとき、正しいマナーがわかるでしょうか。
- 2 正しいマナーなんて、簡単ですね。誰でもわかることばかり。みなさんも、きっと、心のなかで「そんなこと、あたりまえじゃん」とおかしく思いながら答えているのではないのでしょうか。
- 3 でも、よく考えてみてください。あたりまえのマナーを、あなたは、家や学校でほんとうにやっていますか。頭ではわかっているけど友達たちに「ごめんね」と言えなかったり、宿題をやるうやろうと思いつながらテレビを見ていたりしませんか。
- 4 マナーは、知っているだけでは足りないのです。ちゃんと行動して、言葉にだして、できるようになって、はじめて「マナーOK」なのです。「知識一〇〇点、行動〇点」よりも、「知識五〇点、行動五〇点」の人のほうが、ずっと立派です。

## おわりに

- 1 最初に、マナーは実践じっせんするのがたいせつだ、と書きました。つまり、知っているだけでは足りなくて行動するのがだいじなんだよ、ということでした。ところが、さらにマナーやルールには、もうワンランク上のむずかしい点があるわけです。  
※1
- 2 なぜ、むずかしいのでしょうか。それは、マナーやルールは、自分だけのことでなく、人と人との関係を支えるものだからです。大人の用語で言えば、「社会的な人間関係※2の潤滑油じゆんかつゆ」だから、と言えます。
- 3 マナーは自分中心ではなくて、相手中心に考える気持ちからはじまることなのです。だから自分の気持ちや行動だけを考えていては、相手とずれることも出てくるのです。相手のことを思い、相手の様子に気づくことから、人と人が仲よくすごすために役に立つ、すてきな行動がはじまるのです。

(辰巳渚 監修 『これだけは知っておこう! マナー・エチケットの基本60』による。)

※1 「ワンランク」……一つの段階だんかいはいや順位。

※2 「潤滑油」……物事をうまく運ぶためのなかだちとなるもののたとえ。

― 上野さんは、「はじめに」の第1段落の表現がくふうされていることに気付きました。そのくふうを説明したものとして、もっともふさわしいものを次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 筆者が失敗した体験をもとにして、マナーのむずかしさを考えさせている。
- 2 筆者の体験と読者の体験のちがいを比べて、マナーの大切さを示している。
- 3 読者の体験を思い出させて、マナーを身近な問題としてとらえさせている。
- 4 読者が体験したマナーのまちがいを示して、具体的な行動の方法を教えている。

二 上野さんは、「はじめに」と「おわりに」の中に書いてある筆者の考えを次のようにノートにまとめました。あとの問いに答えましょう。

【上野さんのノートの一部】

① 「はじめに」の中に書いてある筆者の考え

「知識一〇〇点、行動〇点」よりも、「知識<sup>ア</sup>五〇点、行動五〇点」の人のほうが、ずっと立派です。

マナーについての知識は十分であるのに、全く行動しない人よりも、

A

人のほうが立派である。

② 「おわりに」の中に書いてある筆者の考え

マナーやルールには、もうワンランク上のむずかしい点があるわけです。

B

さらに、マナーやルールのむずかしい点は、

(1) 上野さんは、ア——部を自分の言葉で書きかえることにしました。



の中に入

るふさわしい内容を筆者の考えに合わせて書きましよう。

(2) 上野さんは、イ——部をよく理解するために書きかえることにしました。



の

中に入るふさわしい内容を筆者の考えに合わせ、書き出しの言葉に続けて、



字以内にまとめて書きましよう。

(メモ) ※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましよう。

			さ
			ら
			に
			、
			マ
			ナ
			ー
			ヤ
			ル
			ー
			ル
			の
			む
			ず
			か
			し
			い
			点
			は
			、

80字 60字